

## 海外研修KYOのあけぼの会 入会のご案内

私たちは、地域社会のリーダーとして、国際交流の促進や環境保全に取り組むために、毎年研修旅行や、女性の自立と社会参画を促進する事業を実施しています。世界遺産等の訪問地では、自然環境の保全と観光による地域活性について学ぶなど、男女共同参画による地域社会づくりを目指しています。

### ★活動にあたって

- 1 人とのつながりを大切に
- 2 実際に行動する
- 3 まわりの多くの人に伝える

資質向上のための研修会・国内外研修旅行

あけぼのフェスティバルに参画・機関紙「てるびっと」の発行

### ★年会費／3,000円

☆主な研修地	2005年 米国アスペン 京都の歴史・水力発電の源をたずねる
	2006年 世界遺産・熊野古道の歴史、自然、環境から学ぶ
	2007年 スイス・チューリッヒで教育・福祉等で活躍する女性と交流
	2008年 世界遺産・石見銀山の文化的景観を訪ねる
	2009年 世界遺産・知床の温暖化対策と流氷トラストに学ぶ
	2010年 イギリス湖水地方のナショナルトラストに学ぶ
	2011年 大地の公園・山陰海岸ジオパークの地域おこし
	2012年 海洋島・小笠原諸島の自然保護活動
	2013年 デンマーク・ロラン島の風力発電・自然再生エネルギー
	2014年 世界遺産登録を目指す五島列島の地域活性化と女性の活動

### 編集後記

昨年5月に、「日本創生会議」というところが、2040年までに若年女性が半減し、社会保障の維持、雇用の確保が困難な「消滅可能性都市」が896市町村あるとされ、京都の町村も上位ランクに押し込まれております。

18年前、「限界集落」に直面した右京区京北（当時京北町）で地場産業である林業が低迷し、「自分の町を元気にしたい」と女性林業家グループが立ち上げられたりするなかで、「木のポストシティづくり」とか「杉の木のいぶり漬物」「舞茸栽培」や「クロモジ茶づくり」に取り組み、女性が意欲を持って働ける環境づくりに努力しています。

今年1月、「地方創生フォーラム」講演会を聴講する機会を得ました。近畿各地で地域づくりに取り組まれている農業や漁業、観光、サービス業の方たちの「地域活性化」への熱い思いに接すると共に、女性力を発揮するために、職業を持たない女性の意識改革や、男性や企業の意識改革が急務であることを痛切に感じました。京都府における新たなステージである「全ての女性が輝く京都づくり」の一翼を担ってまいりたいと思います。（一瀬裕子）

# てるびっと

No.21

2015. 3



## 海外研修KYOのあけぼの会

表題「てるびっと」は前京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)で「あけぼの」の意味です。京都府の花「したれざくら」木「北山杉」鳥「オオミズナギドリ」を戸塚フランス刺繍で表したものです。



ごあいさつ



海外研修KYOのあけぼの会  
会長 田中田鶴子

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃より海外研修KYOのあけぼの会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、長崎県五島列島への自主研修を実施いたしましたところ、多くの方々にご参加をいただきました。厳しい信仰の歴史や五島の観光産業、世界遺産登録に向けた町の活性化について学ぶ機会に恵まれ、有意義な研修となりましたことを大変嬉しく存じております。

さて、当会も1989年の設立以来、地域社会活動のリーダーとしての資質向上に努めると共に、女性関係団体相互のネットワークづくり及び国際交流の促進に期することを目的として活動して参りました。設立当時、京都府では、男女共同参画の21世紀社会を目指す行動計画として「KYOのあけぼのプラン」が策定され、国の男女共同参画社会形成の推進の流れに沿う形で、私たちもその実現に向けて歩み出しました。それから月日が経つのは早いもので、間もなく30年の節目を迎えようとしております。

振り返りますと、女性を取り巻く環境も当時と今とでは課題も様変わりしております。今まさに男女共同参画社会づくりは転換期を迎え、我が国最大の潜在力である「女性の力」を最大限発揮できるような「すべての女性が輝く社会づくり」を目指して社会が動き出そうとしております。当会もそういった意味では、会のあり方や活動内容を考え直す時期を迎えているような気がいたします。

京都府 府民生活部 男女共同参画課のご指導のもと、新しい展開ができればと思いますので、今後とも会員の皆様におかれましては、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2014年度総会

日時:平成26年4月14日(月) 10:30～14:30

場所:京料理 筍亭(京都市西京区)

- 総会
- 1 開会
  - 2 会長挨拶
  - 3 来賓紹介
  - 4 来賓祝辞
  - 5 議長選出
  - 6 議事
    - ①2013年度事業・決算報告
    - ②2013年度監査報告
    - ③2014年度事業・予算(案)審議

昼食交流会



京都府大谷参画監のご挨拶

# 提論

## 明日へ



**関根 千佳さん** 同志社大学政策学部教授  
ユナイテッド会長  
1957年長崎県佐世保市生まれ。九州大学法学部卒。81年、日本IBMに入社後、UDの重要性を感じ、98年にユナイテッドを設立。2012年より現職。著書に「ユニバーサルデザイン」のちから「スローなユビキタスライフ」など。

学生の頃、毎週金曜日に、唐津へお茶のお稽古に通っていた。今はもうなくなつたが、筑前高宮という駅から、筑肥線に乗るのだ。筑前深江を越えると、風の色が変わって見える。

虹ノ松原に近づくと、森の中を走るように、ときどきした。白砂青松という言葉、葉を、何度も思ったものだ。唐津にいらしたのは、宗偏流の溝上宗栄先生という方である。当時すでに80歳を超えて、大先生と呼ばれていた。

ある日、お茶室で、60代の中先生が、80代の大先生に話しかけた。

「茶わんは、60を過ぎんとわかりませんなあ」

大先生は笑って答えた。

「いえいえ、80を過ぎたって、まだわかりませんよ。毎日が勉強です」

先生方のそばで、へたなお点前をしながら、20歳の私は考えた。そうなのか。これまでの人生の、3倍生きている、4倍生きている、まだわからない世界があるんだな。人生とは最後まで学び続けること、年をとるとは知恵を重ねていく過程なのだ、おぼろげながら、理解した瞬間であった。

大先生は、普段はおちゃめて楽しい方だったが、お茶会では、鶴のように凛として美しかった。近松寺で行われた宗偏忌という茶会で、薄紫の着物に黒の輪子の帯を締めて、端然と座っていた姿を忘れられない。いくつになっても精進しつづけることで、人はこんなにも美しくなれるのだという事例に、若くして出会えたことは、一生の幸せであった。

## 華麗?学への招待

# 生涯、学び続けるために

私は今、京都の同志社大学でジェロントロジー(高齢学、加齢学)を教えている。政策トピックスという科目の中で「華麗?学への招待」という副題をつけたら、学部や年代を超えてたくさんの方の受講生が来るようになった。ここで90歳の元気なシニアに、青春について講演していただいたこともある。

ジェロントロジーとは、日本ではまだあまり知られていないが、欧米では100年ほど前からある一般的な学問だ。老年医学、高齢社会学、社会保障政策、死生学などを含み、高齢社会における多様な課題をどう解決するかを、幅広く考えるものだ。海外の大学では教養科目の一部だが、日本では残念ながら、東京大学などごく少数の大学でしか教えられるしていない。

世界最高齢国家である日本で、高齢社会を幅広く考えるジェロントロジーが、なぜ教えられていないのだろうか? それは日本の大学が、若年層しかいない特別な世界だからである。

大学などの高等教育機関で25歳以上が学ぶ率は、経済協力開発機構(OECD)各国の平均では21.3%で、隣の韓国では10.1%だ。しかし日本ではたったの1.8%である。これでは、

多様な年代で学びあう場にも、一度社会に出た人が学び直す場にもなりえない。18歳人口の急激な減少を考えると、日本も諸外国のように、大学を多様な年代に開いていく必要がある。

私の大学院の総合政策科学研究科には、20代から70代まで、幅広い年齢の学生が学ぶ。障害のある人、役所を引退した女性など、その年齢も状況も幅広く、まさにユニバーサルな環境だ。現役の社会人と学生が議論し、シニアが若者に人生の知恵を伝える。その光景に、私は、唐津の大先生の姿を思い出す。華麗に年を重ねた人々の知恵を、年代を超えて受け継いで、若者がその中から自分の感性で新たなイノベーションを創り出す。多様な年代を受け入れ、ジェロントロジーを共に学ぶことは、日本の大学をそのような場に変革していくはずである。



# 第26回KYOのあけぼのフェスティバル2014

## ワークショッププログラム

海外研修KYOのあけぼの会・京都商工会議所女性会

当海外研と京都商工会議所女性会は連携しあって、あけぼのフェスティバルに取り組んでいるが、今回は「長崎県五島列島」の歴史・産業・観光・教会群の世界遺産登録にむけて「地域おこし」に取り組まれている姿を紹介すると共に、京都の私達も「チャレンジ&交流」をテーマに「地域を元気に出来るのは女性だ」という視点で発表に臨んだ。

日時 平成26年11月8日(土)

場所 京都テルサ 参加者 64名

1 開会挨拶 海外研修KYOのあけぼの会  
会長 田中 田鶴子



田中会長

2 DVD発表

「長崎県五島列島を訪ねて」

発表者「五島の全体像」	岡野 路子
「歴史・風土」	木下 恵子
「産業・観光」	奥谷かをる
「信仰・教会」	山科 昌子
「旅の終わりに」	一瀬 裕子
「映像編集」	神田 尚子



ワークショップ会場

3 講演「華麗学への招待～いくいつまでもカラフルで～」

講師 同志社大学教授・株式会社ユーディット会長  
関根 千佳 さん

「ユニバーサルデザイン」「ジェロントロジー(加齢学＝華麗学)」という分野の興味深い内容で、生涯学び続けるための示唆に富んだお話をきいた。「生涯勉強」「老いても挑戦する」「これからこそ、いまだからこそ役に立てる」等、有意義であった。(7pに関連記事)



関根千佳さん

4 閉会挨拶

京都商工会議所  
女性会  
中西たえ子会長



満席の会場

ごあいさつ

海外研修KYOのあけぼの会の皆様方には、日頃から京都府の男女共同参画行政の推進はもとより、府政全般にわたり、格別のご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。



京都府府民生活部男女共同参画監  
大谷 学

昨年は、「五島列島」での研修を実施され、その成果をあけぼのフェスティバルで発表いただきました。五島列島の美しい自然、教会群を通じた文化、歴史の紹介、そして、厳しい人口減少の中での地域活性化策など、課題を的確に捉えた研修を実施されていることに敬意を表します。

海外研修KYOのあけぼの会の皆様方には、平成元年の結成以降、京都府の男女共同参画推進、女性の活躍推進を中心となって担っていただき、この取組は大きく前進しました。しかし、今、地方消滅とまで言われる少子化・高齢化など、時代は大きな転換期をむかえております。

「すべての女性が輝く社会をつくる」今、国において最重要課題と位置づけられております。我が国の最大の潜在力である「女性の力」を最大限に発揮できるようにすることで、あらゆる分野に多様な価値観や新しい視点、創意工夫をもたらすことができます。

女性が輝くことは、誰もが暮らしやすい社会、活力のある社会をつくることにつながります。京都府においては、これまで、海外研修KYOのあけぼの会をはじめ、多くの団体の皆様のお力をいただき、男女共同参画施策を進めてまいりました。この大きな転換期に国の動きを踏まえて、新たなステージへ歩みを進めるためにも、皆様のお力がますます必要です。

引き続き、京都府の男女共同参画社会づくりに、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ・研修会の様子

出席会員35名、委任状35名の出席を得、開催。田中会長の挨拶に続き、京都府府民生活部大谷学男女共同参画監のご挨拶のあと、議事に入り、決算・予算について審議いただき総会を終了した。

講演「細川ガラシャの生涯に学ぶ」

講師 京都西山短期大学講師 百瀬ちどりさん

長岡京の発掘調査や長岡京市史編纂に携わり、長岡京の歴史に詳しい百瀬ちどり先生から、戦国時代という殺し合いの不幸な時代にあり、また誰に生まれたかで一生が決まる時代に生きたガラシャについてのお話をお聴きした。キリシタン禁制下にキリスト教徒としての信仰を貫き、あるがままを受け入れ、生ききった人であると知る。今は女性も個人の努力で運命が開ける時代、よりよく生きようと。講演ののち、ガラシャが結婚生活を送った勝竜寺城址をたずね、研修を深めた。



百瀬ちどりさん



祈りの島

# 五島列島の旅

平成26年6月29日～7月1日 参加者18名



長崎の西に浮かぶ五島列島は、奈良・平安時代の遣唐使の寄港地、海外貿易の拠点として繁栄する。キリスト教の伝来で中心となった長崎だが、明治初めまで弾圧が続き、潜伏キリシタンという特異な信仰の歴史を持つ。信仰が自由になり島々に建てられた教会は50余。この教会群を地域活性化に繋げるため世界遺産登録をめざし、また、女性たちを中心に「椿・棚田米・芋・魚」で「地域おこし」「暮せる島づくり」が進められています。



木口汽船専務、世界遺産長崎チャータートラスト理事木口利光さん  
若い人が勤める町に、信仰の場を守りながら観光との調和を！



世界遺産目指す五輪教会



久賀島女性会との交流



久賀島案内人



観光は電気自動車で



五島のシンボル鬼岳（火山）



殉教者のあった牢屋の窄教会



木口利光先生を囲む研修旅行参加者（敬称略）左から  
山田 美雪 柴田 栄子 宮本敬子 安井二三子 磯部みつ江 神田尚子 藤谷美都子 瓜生美恵子 木口利光先生  
田中田鶴子 奥谷かをる 岡野路子 湯川美栄子 堀谷二三子 山科昌子 一瀬裕子 西村温子 大谷陽子 木下恵子

## ★旅の感想

### ★五島の全体像

西海国立公園の雄大な景観と、美しい海と砂浜、豊富な海産物、教会群が美しい風景に溶け込んでいる。信仰と観光の両立を願い、祈りと癒しの島として平和な世界を残す活動が続きますように。教会群が世界遺産に登録されて、後世につながりますようにとねがいました。（岡野 路子）

### ★歴史・風土

遣唐使の寄港地となり、中世にキリスト教が広まるが、キリシタン禁教令がしかれ、信者は隠れキリシタンとなり、明治まで迫害の歴史が続いた。いつの時代にも文化が行き来した重要な島である。「離島だからできること」が次代につなぐ合言葉だときました。（木下 恵子）

### ★産業・観光

漁業が主産業で、江戸時代は捕鯨が栄え、近年は「近大マグロ」で有名なクロマグロの養殖が盛んです。畜・農業では五島牛、米、葉たばこ、トマト、うどん、塩、椿。一方で、環境に配慮した再生可能エネルギーの島として発展を目指しています。電気自動車の導入や洋上風力発電も設置されていました。（奥谷かをる）

### ★信仰・教会

明治になって信仰が自由になると、「祈りの場」である教会を作り始めました。五島生まれの大工が外人宣教師に指導をうけて建てた教会は洋と和が融合した独特の雰囲気があります。島に自生する椿をデザインしたステンドグラスが綺麗でした。（山科 昌子）

## 祈りの島五島の教会群



水ノ浦教会/五島市



国指定重要文化財  
頭ヶ島天主堂/上五島町



国指定重要文化財  
青砂ヶ浦天主堂/上五島町